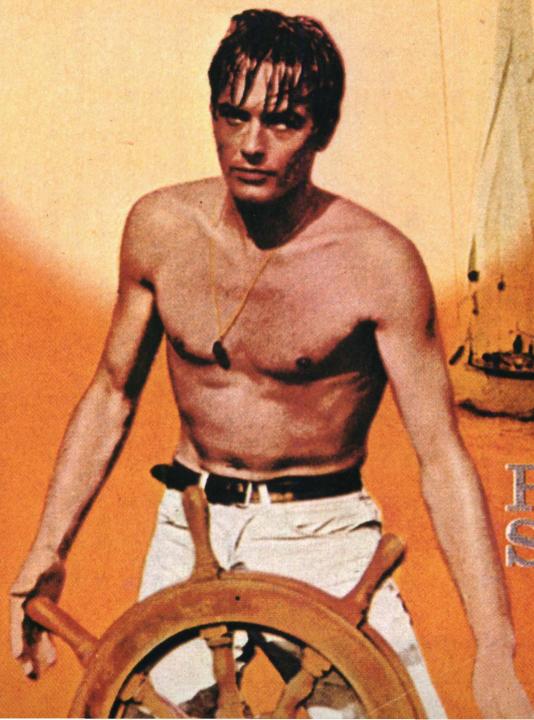


主題曲
朝日ソノラマ提供

金と女が欲しい！それだけで人を殺した
鮮烈の主題音楽が描く映画史上最高の傑作

太陽がいっぱい

総天然色／ビスタビジョン



アラン・ドロン

マリー・ラフォレ／モーリス・ロネ
名匠 ルネ・クレマン 監督

撮影 アンリ・ドカエ

音楽 ニーノ・ロータ

6月12日 ロード
ショウ

日比谷 スカラ座

PLEIN
SOLEIL

フランス映画
日本ヘラルド映画



〈総天然色〉

太陽がいっぱい

PLEIN SOLEIL

監督……………ルネ・クレマン
 原作……………パトリシア・ハイスミス
 脚本……………ルネ・クレマン
 ポール・ジェゴフ
 撮影……………アンリ・ドカエ
 音楽……………ニーノ・ロータ

トム・リブレイ……………アラン・ドロ
 フィリップ……………モーリス・ロー
 マルジュ……………マリー・ラフォ
 リコルディ刑事……………エルノ・クリザ

解説と内容

「太陽がいっぱい」は、公開された一九六〇年に各ベスト・テン選出の第一位を独占した秀作であるのみならず、戦後フランス映画全作品を通じて、きわだってすぐれた、名篇中の名篇とも呼ばれるべき作品である。

トム・リブレイという青年が主人公。快活で小才がきいて人にとりい術にたけている。ヨーロッパに出かけたまま、遊び暮して帰ろうともしない金持ちの息子フィリップを、アメリカに連れ戻すようその父親に頼まれて、フィリップのもとにやって来る。報酬は五千ドル。トムにとっては、喉から手が出るほど欲しい大金である。

しかし、イタリアの美しい漁村モンジベロの気ままな暮しと、美貌の恋人マルジュを得ていたフィリップは、アメリカに帰る気は全くない。フィリップの上流階級特有の傲慢な態度と侮蔑に対して、召使いのように従順にかしずいて御気嫌をとり結んでいたトムだと、密かに恐い計画を企んだ。貧しく育ったトムのこのころのなかには、フィリップのような身分になりたい、という欲望が、その天使のような顔とはうらはらに、どす黒く渦を捲き始めたのだ。

トムは、フィリップとマルジュとの仲を小細工を弄して割くことに成功すると、フィリップを短刀のひと突きで刺殺した。地中海の青い海原に浮んだ一隻のヨットの上的、真昼の惨劇。こうして、トムはフィリップの身分証明書から衣類、宝石のすべてを奪い、彼のサインを真似、声を真似てフィリップになりました。そして、マルジュまで奪って、彼の完全犯罪は見事に成功したかに見えたが……

端正な美貌と快活なふるまい、その仮面の底によどみ激しい欲望と、欲望以外の何者をも信じない虚無。一人の典型的な現代青年の孤独な、恐い犯罪の物語を、甘美な旋律と色彩美溢れるシヤープなカメラ、そして鮮烈なサスペンスで描ききって、強烈な感動を残さずにはおかない。

主役のトム・リブレイには、この一作でトップスターの座を固めたアラン・ドロン（泥棒を消せ）、トムに殺されるフィリップに、強烈な個性的演技を見せるモーリス・ロネ（輪舞）、美少女マルジュに、この作品で鮮やかなデビューをとげたマリー・ラフォレ（女は夜の匂い）、という魅惑のキャスト。

監督には、レジスタンス映画の秀作「鉄路の闘い」以来、「禁じられた遊び」、「居酒屋」など数々の話題作、傑作を発表して来た戦後フランス映画きっての鬼才ルネ・クレマン、原作はイギリスの女流推理小説作家パトリシア・ハイスミス。光と色彩の極致を描いた感ある名画面をくりひろげる撮影は、名手アンリ・ドカエ（ダンケルク）、そして忘れがたい美しい旋律を誇る音楽は、イタリアの巨匠ニーノ・ロータ最大の傑作という、超一流のスタッフ陣を揃えている。

（上映時間二時間二分）

